

# 分析結果報告書 [12] 1 / 3

## 3. 3 底質試料（アルキル水銀：参照項目）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO14001 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1～4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	( ) 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	( )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

### <重金属類の経験等>

廃棄物の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
土壌の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
環境水、排水等の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない

### <分析結果>

項目	回数	分析結果 (mgHg/kg) 注1)	
		検出下限値以上 注2)	検出下限値未満の場合：検出下限値 注3)
メチル水銀	1回目		
	2回目		
	3回目		
エチル水銀	1回目		
	2回目		
	3回目		

注1) 分析結果(検出下限値以上)は下記<分析結果(乾燥減量)>を用いず実測した値とし、有効数字3桁、検出下限値未満の場合は検出下限値を有効数字1桁で該当する欄に記入する。記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満の場合：検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 分析法の検出下限値未満であった場合、分析法の検出下限値(MDL)を有効数字1桁で記入する。

### <分析結果(乾燥減量)>

項目	分析結果 (%) 注1)
乾燥減量	

注1) 分析結果は有効数字3桁で記入する。なお、複数回測定している場合では代表値(例えば、平均値)を1つ記入する。

### <分析開始日等>

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

### <分析方法等>

分析方法	1. ガスクロマトグラフ(ECD)法 2. キャピラリーGC/MS法 3. その他( )
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他( )

# 分析結果報告書〔12〕 2 / 3

試料量 (分析用試料の分取量)	( ) g
準備操作(前処理)	1. アルカリ処理-トルエン抽出法 2. アルカリ処理-ジチゾントルエン抽出法 3. その他 ( )
アルカリ処理	1. 行う 2. 行わない
塩酸の添加 添加した塩酸の濃度と量	1. 行う 2. 行わない ( ) mol/L ( ) mL
硫黄に対する処理	1. 行う 1. 塩化銅で処理 2. その他 ( ) 2. 行わない
抽出操作 (1回目) 使用した溶媒 (2回目) 使用した溶媒 (3回目) 使用した溶媒	1. トルエン ( ) mL 2. その他 ( (溶媒名: ) mL) 1. トルエン ( ) mL 2. その他 ( (溶媒名: ) mL) 1. L-システイン-酢酸トリウム水溶液 ( ) mL 2. その他 ( (溶媒名: ) mL)
その他の処理	1. 行う ( ) 2. 行わない
前処理後の溶液(定容量)	( ) mL
カラム	1. 市販品 (ULBON HR-Themon-HG) 2. それ以外 (カラム名: ( )、メーカー名: ( ) ) 3. 自作 (3. の場合) 充填剤名: ( )、メーカー名: ( )、カラム内径 ( ) mm、 カラム長さ ( ) cm

## < 検量線の作成等 >

定量方法 方法 内標準法: 内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 ( ) ( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	( ) 最小 ( ) ~ 最大 ( ) 注1) 作成範囲の単位: 1. $\mu$ gHg 2. mgHg/L 3. その他 ( ) ( )
標準液濃度の表示 注2)	1. 水銀 (Hg) 2. アルキル水銀 3. その他 ( )
検量線作成用標準液の作成方法	1. 試料と同じ前処理操作を行う 2. 標準原液から希釈して直接使用 希釈溶媒 ( ) 3. 標準溶液を L-システイン-酢酸トリウム混合溶液での抽出操作を行う 4. その他 ( )
試料の指示値 注3)	1回目 ( ) 2回目 ( ) 3回目 ( )
空試験の指示値 注4)	( )
装置検出下限値 (IDL)	( )mgHg/kg 注5)
IDLの算出方法	1. 「底質調査方法 (平成24年8月環境省水・大気環境局)」に記載されている方法 2. 「水銀分析マニュアル」(平成16年3月環境省)に記載されている方法 3. 3 $\sigma$ 法で計算 (3. の場合 $\sigma$ の算出法: (濃度) mgHg/kg (繰り返し回数) 回) 4. その他 ( )
分析法検出下限値 (MDL)	( )mgHg/kg 注5)
MDLの算出方法	1. 「底質調査方法 (平成24年8月環境省水・大気環境局)」に記載されている方法 2. 「水銀分析マニュアル」(平成16年3月環境省)に記載されている方法 3. 3 $\sigma$ 法で計算 (3. の場合 $\sigma$ の算出法: (濃度) mgHg/kg (繰り返し回数) 回) 4. その他 ( )

注1) 分析装置で測定する溶液中の量 ( $\mu$ g) 又は濃度 (mg/L) 等を記入する。

注2) 検量線の作成に用いた標準液濃度の表示方法を示す。

注3) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注4) 標準添加法では記入しない。

注5) 試料中の濃度 (mgHg/kg) を示す。

# 分析結果報告書〔12〕 3 / 3

## <試料の保存状況>

保存状況	保存方法等 保存時間 注7) 保存温度	1. 冷暗所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他( ) 約( )℃
------	---------------------------	---

注7) 時間単位で記入する(例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--